北海道建設新聞　2005年(平成17年)10月19日（水曜日）

# 高度な技術、肌で学ぶ

## 帯広土現が職員現場見学会

【帯広】帯広土現は17日、職員現場見学会を開催、特殊工法を用いた帯広市内の橋梁新設現場で高度な土木技術を学んだ。

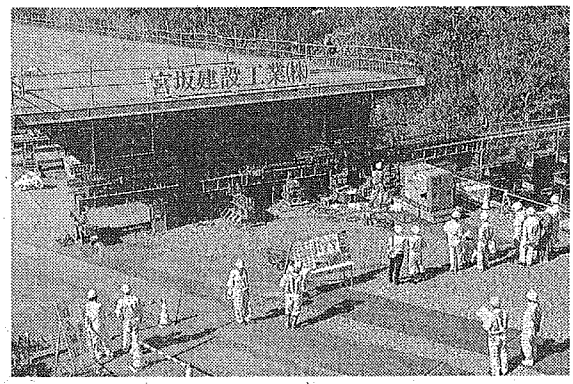
見学会は技術系職員を対象に、知識などを深めていこうと11日に続いて実施し、宮坂建設工業が施工している3・3・46弥生新道1工区改良上部架設の現場を訪れた。

工事はダブルウエーの橋梁を新設するもので、本年度はL橋（橋長220㍍、5径間連続鋼床版箱桁）を整備中。

橋梁の架設はトラッククレーンを用いる工法などが一般的だが、一帯はエゾモモンガやエゾサンショウウオが生息する自然豊かな地域のため環境への負荷を考慮し、この現場では送り出しと地組みで架設した桁を所定の位置に横移動して設置するという「送り出し架設横取り降下工法」を採用している。十勝管内では初めて、道内でも数例しか施工例はない。

この日は、桁の横移動作業が行われ、約1100㌧の巨大な構造物がジャッキシステムでゆっくりと動く、迫力のある光景に参加者は食い入るように見入っていた。

約1100㌧の桁を約16㍍右側へ移動させる作業に見入った




北海道通信　平成17年10月19日【水曜日】

# 管内初採用の技術学ぶ

## 技術職員対象に現場見学会

## 送り出し架設横取下降工法

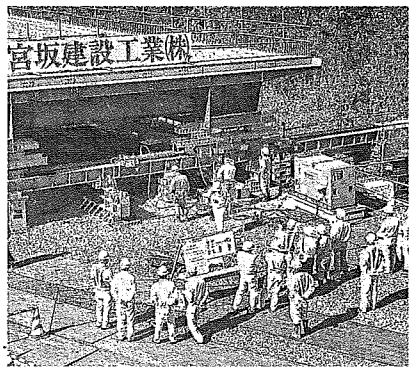
帯広土現

【帯広発】帯広土現は十七日、帯広市内で技術職員を対象とした現場見学会を開催。企画調整室、道路建設課、治水課、事業第二課、鹿追出張所から約三十人が参加し、高度な土木技術について研鑽を積んだ＝写真＝。

見学会は、事例の少ない工法等を実際に見ることで、職員の技術力向上を図ろうと開催したもの。今回は、帯広市内の「3・3・46弥生新道1工区改良上部架設」工事（宮坂建設工業㈱）を視察した。

現場は、開拓時代そのままの自然を残す大山緑地と若葉の森があり、エゾモモンガやエゾサンショウウオの生息地となっている。そのため、同工事では、自然豊かな桁下への負担を最小限に抑えるべく、送り出し架設横取下降工法を採用している。

道路橋で、橋長二百二十㍍、一千二十㌧の五径間連続鋼床版桁を横移動し降下させるのは、全道でも数例見られる程度で十勝管内では初。

さらに、今回の施工は、鋼床版桁が四%の下り勾配を有しており、垂直荷重のほか、水平方向に四十㌧もの荷重が働くことから、反力のバランスを調整し、桁に応力を与えないようにする注意が必要で、極めて難易度が高くなっている。

当日は二百二十㍍の桁を六ヵ所で支え、水平に十六・二五㍍移動させる作業を見学。参加者は一千㌧を超える鋼床版がダイナミックにスライドしていく様子を興味深く見守った。